

文化財の発掘(二)

活用と保護

墓料遺跡の発掘調査

一箕町墓料遺跡では、六月から十月にかけて、民間開発に伴い発掘調査を実施しました。

その結果、弥生時代初期の再葬墓群の他に、縄文時代晩期(約三〇〇〇年前)の堅穴住居跡三基、平安時代の大型掘立柱建物跡等が見つかりました。

再葬墓とは、人が亡くなった後に埋葬等を行い、骨にな



なったら掘り出して土器に骨を納めて再度埋葬するお墓のつくりかたのことです。主に中部地方から東北地方で行われていた風習で、中でも福島・茨城・栃木県の周辺でこのような遺跡が多く見つかっています。



土器が出土した状況(上)と復元後の姿(下)で、一番右の壺は高さが70cmあります

今回の調査成果は、市内における弥生時代初期の葬送の在り方を知る上で貴重な成果となり、記録として保存しました。

会津藩の二代から九代の藩主とその家族が眠る会津藩主松平家墓所は、通称、院内御廟と呼ばれ、国の史跡に指定されています。



第10回散策会の様子

教育委員会では毎年、御廟の森を散策しながら会津藩の歴史を学ぶ催しを開催しています。

平成三十年十一月二十五日に通算十回目となる散策会を実施しました。

今回の散策会では、御廟を初めて訪れた方や藩主の家族のお墓について知りたい方など、解説内容ごとに班分けをして散策を行いました。

文化財防火デー

毎年一月二十六日は、文化財防火デーです。昭和二十四年に法隆寺金堂壁画が被災したことを契機に、文化財を火災等から守り、その大切さを伝えるために制定されました。

本市では、防火デーにあわせて、実際の火災を想定した火災防ぎ訓練を行っています。



凍てつく寒さの中行われました

第六十五回となる今回は一月二十七日(日)、一箕町にある「旧滝沢本陣」で、訓練を実施しました。

今回の訓練では、所有者の横山様、会津若松市消防団第三分団・八分団・十三分団、会津若松消防署にご協力いただきました。

郷土研究奨励事業

郷土会津の文化振興を図ることを目的とし、会津地方に関する郷土の調査、研究等を行った作品を毎年募集し、奨励しています。

平成三十年度は、奨励賞二作品、準奨励賞五作品、努力賞四作品を奨励しました。準奨励賞以上の作品は、歴史資料センター「まなべこ」や会津図書館で見ることが出来ますので、ぜひご覧ください。



受賞者のみなさんと審査員

平成三十一年度の募集要項については、五月一日以降発行の市政だよりまたは市ホームページを参照してください。

あいづわかまつ 文化財だより

発行 会津若松市教育委員会
編集 会津若松市教育委員会文化課
〒965-0871 会津若松市栄町5番17号
☎0242-39-1305

第26号
平成31年4月1日
(2019)



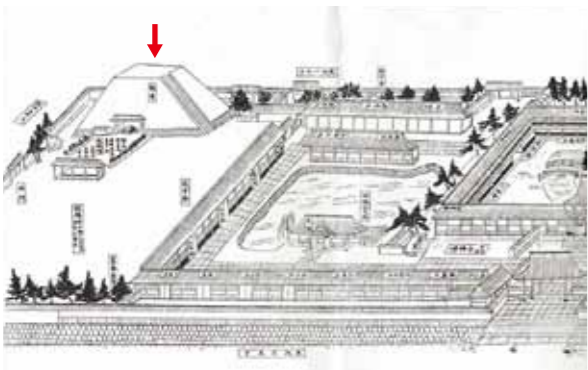
日新館天文台跡が日本天文遺産に認定されました!!

文化財の保護

日新館天文台跡

江戸時代、現在の謹教小学校東側には、藩校日新館がありました。日新館の建物は戊辰戦争で焼失しましたが、天文台跡のみがその跡地に残されています。

その日新館天文台跡が、日本天文学会により新たに創設された日本天文遺産に認定されることが三月十三日に発表されました。天文台跡は、江戸期の天文台跡として唯一現存する全国的にも貴重な史跡で、天文学



絵図に描かれた天文台



天文台を見学される方へ
周辺に駐車場はありませんので、鶴ヶ城西丸駐車場(有料)をご利用ください。

的にも重要なものであることから、今回の認定となりました。

毎年、清掃などをしていただいている地元の人々をはじめ、丁目町内会の方々をはじめ、地域の皆さまに愛されている天文台跡を、市としても、これからも大事に保存していきたいと考えています。

御薬園の整備

御薬園では、庭園が造られた江戸期の姿に戻すために整備を行っています。平成三十年は、御茶屋御殿南側の西池の西・南岸の修復を行いました。

西池の乱杭護岸は、長い年月により岸辺が侵食されていたため、護岸に新たな丸太を打ち込み、丸太を押しさえるための石を充填し、そのうえに土を盛り、芝を張りました。

きれいに修復され、ほぼ築造当時の姿を取り戻した西池をどうぞご覧ください。なお、本年は、西池の東岸の修復を行う予定です。



修復された西池の護岸

文化財の発掘と記録保存

田中遺跡の発掘調査

河東町槻ノ木地区で行われているほ場整備に伴い、昨年度に引き続き発掘調査を実施し、縄文時代、弥生時代、古墳時代終末期、奈良時代、平安時代の土器が出土しました。



土師器の焼成遺構

調査地の地盤は、粘り気の強い黄色い粘土で、この粘土を使用して土師器を作っていた可能性があります。また、掘立柱建物跡も多く発見され、その中には、

規模の小さな建物もありました。焼成する前に、土器を乾燥させるための建物と考えています。

規模の大きな建物の中には、土師器の焼成遺構よりも古い時期のものもあります。建物周辺から、奈良時代の硯も発見されているため、一般の人が生活していた建物ではなさそうです。今後、遺物等を詳細に検討し、この建物や遺跡の性格について考えていきます。



発掘調査の風景



河川跡で発見された土師器

城前団地の発掘調査

城前団地の建て替えに伴い、解体後に順次、発掘調査を実施しています。平成三十年度は、団地の南東隅で調査を行いました。

この周辺は江戸時代は武家屋敷跡で、今回調査を実施した箇所は、会津藩の家老であった築瀬三左衛門の屋敷跡にあたります。平成二十五年年度に同屋敷



写真手前の水路から奥の池に向かって水が流れ込んでいたと考えられます。



池内から水路を望む。武家屋敷の池は防火用水でもありました。

高野地区の試掘調査

高野地区で予定されている農地整備事業に伴い、上高野集落の東側、及び平沢集落の北側を対象として、遺跡の試掘調査を実施しました。

昨年度の調査でも、「高」や「止番」と書かれた墨書土器が出土しており、今年度も墨書土器や、硯の破片、さらには鉄滓（鉄くず）や鉄を溶かす炉の破片なども出土しました。この事は、この周辺で、文字を書いたり、鉄製品を製造していた証拠であり、当時、これらしていたとは考えられません。



建物の柱跡や土坑



平沢遺跡北側で発見された鉄滓

文化財の活用と

新登録文化財の紹介

歴史資料センターまなべこの展示と歴史文化講座

平成三十年は戊辰戦争から百五十年の節目の年であり、歴史資料センター「まなべこ」でも、常設展示室にて「会津藩士の戊辰戦争」と題した展示を行いました。

二月からは、「会津の観音信仰の旅」というテーマで、江戸時代の信仰の旅や鉄道を中心とした現代の旅について展示を行っています。



屋外を歩く講座やワークショップも行っています(大窪山)

また、企画展示室では、



むかしのくらしを体験するワークショップ

まなべこの新収蔵資料展や、藩士の墓である大窪山に関する展示などを開催してきました。

週末にはひと月に一、二回、歴史だけではなく民俗学や自然分野などあらゆる視点から会津の文化を学ぶ、歴史文化講座も開催しています。

講座や企画展の詳細は、市政だより等でお知らせしていますので、気になる講座がありましたらぜひお気軽にご参加ください。

国登録文化財

- 国登録有形文化財
末廣酒造嘉永蔵(日新町)
平田家住宅(行仁町)
- 国登録記念物
会津飯盛山白虎隊士墳墓域(一箕町)

登録有形文化財

国の文化財の保存には、「指定」とそれに比べてやや緩い規制がかかる「登録」の二つの制度があります。この登録有形文化財は、近代に建てられたものを含めた建築物を後世に継承していくためのものです。

平成三十年度には、日新町の末廣酒造嘉永蔵の建築物六棟(主屋・新蔵・老号蔵・三号蔵・四号蔵・五号蔵)、その他の工作物三基(煉瓦煙突・正面門・煉瓦塀)と行仁町の平田家住宅の建築物三棟(主屋・東蔵・西蔵)が、十一月二日に登録されました。



末廣酒造嘉永蔵の外観



平田家住宅主屋の内観

町二丁目)が国登録有形文化財に登録されています。これにより本市の登録有形文化財は六件(建築物十七棟、工作物三基)となりました。

登録記念物

飯盛山の白虎隊士墓所などが会津飯盛山白虎隊士墳墓域(一箕町)として登録記念物に登録されました。これは、幕末維新期における悲劇とその慰霊の歴史を理解する上で意義深いという評価を受けたものです。登録記念物は、福島県で初、さらに戊辰戦争に関しては全国で初めての登録となります。



白虎隊十九士の墓

登録になると税制面などに優遇措置などもありますので、残したい建物等を所有されている方の相談をお待ちしております。